

創立 1980年10月8日



ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0024 堺市堺区向陵中町2丁5-10 杉本ビル5-B・Tel:(072)255-1200 番

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 PANTARON Tel:(072)228-3988 番 (魚太郎直通電話)

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : snrc@jasmine.ocn.ne.jp

ガバナー(第2640地区) 辻 秀和(ツジ ヒデカズ)

ガバナー事務所 URL : <http://www.rid2640g.org/tsuji/>

E-mail : tsuji2014-d2640@ivy.ocn.ne.jp

会長: 山ノ内修一 幹事: 塩見 守 広報委員長: 坂田兼則 編集者: 中川澄

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

本日の例会

2014年10月17日(金)第1634回

卓話 「落語を10倍楽しむ法」

卓話者 山中 喜八郎 会員

今週の歌「日も風も星も」

「堺北 RC の歌」

「見上げてごらん夜の星を」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・S A A 報告

今週の歌
「見上げてごらん夜の星を」

見上げてごらん夜の星を
小さな星の 小さな光が
ささやかな幸せをうたってる
見上げてごらん夜の星を
ボクらのように名もない星が
ささやかな幸せを祈ってる



次回の例会

2014年10月26日(日)第1635回

RI 第2640地区 地区大会

於: 河内長野市文化会館

2014年10月10日(日)第1633回

「第1回 テーブル会議」

今週の歌「R-O-T-A-R-Y」

「バラが咲いた」

お客様の紹介

出席報告 会長の時間

委員会報告・幹事報告・S A A 報告

○皆出席表彰(10月度)

堀畑好秀会員(第34回)

新井茂文会員(第30回)

國井 豊会員(第28回)

木畑 清会員(第3回)

○ロータリー財団表彰

堀畑好秀会員(第5回 P.H.F)

<10月10日(金)の出席報告>

会員数	33名
出席会員	18名
欠席会員	15名
ビジター	0名
ゲスト	0名
9月5日(金)の出席率	78.78%



2014-15年度 国際ロータリーのテーマ

「ロータリーに輝きを」

Light Up Rotary

国際ロータリー会長 ゲイリーC.K.ホアン(台湾・台北 RC)

第1回 テーブル会議

議題：「地区大会について」

幹事 塩見 守

「地区大会について」を議題として、今の地区状況での大会運営とそれまでの大会風景等を発表形式でお願いしました。2項目に分けて掲載させていただきます。

「以前の地区大会」

- 1) 一年に一回のお祭りのな感じで、盛大に行われていた。
- 2) 他クラブとの親睦を深め会えていたと思う。
- 3) ロータリアン歴の長い方から最近なられた方までと、幅広い交流の場になっていた。
- 4) ガバナーの晴れ舞台として、会員全員が応援していた。
- 5) 各クラブでの一年間の活動をアピールして、競い合っていた部分があった。
- 6) ロータリー会員は必ず出席するという思いを強く持っていた。
- 7) 一大行事の認識を共有して、みんな一丸となって、まとまっていた。
- 8) 開催会場に全員が入れるのか、駐車場に車が入り切れるのか、心配になる位に沢山のロータリアンとその家族方が参加していた。
- 9) 地区大会で行われる様々な講演と行事等を凄く楽しみにしていた。

「現在の状況での地区大会・その他」

- 1) 正常な状況ではない地区大会なのですが、やっぱり参加したい。
- 2) 楽しみだった地区大会を昔の様に戻してほしい。
- 3) 正常化する会のトーンがダウンしている様に思う。
- 4) 人と人が顔を合わせて表情を見ながら、心を通じ合わせるクラブ運営が大切だと思う。
- 5) 最近のEクラブが増えている状況はいいとは思えない。
- 6) ロータリーに入会して良かったと思えるクラブにして行きたい。

以上のご意見を頂きました。現在の地区大会よりも正常な頃の地区大会についての発言が、多く時間を使った様に感じました。30分という限られた時間でしたので、全員の意見を聞くことは出来ませんでした。発言を取りまとめて用意をして下さいました会員もおられたと聞いています。大変うれしく思いました。次回の第2回テーブル会議・インフォーマルミーティング・ファイヤーサイトミーティング等を活用して、ロータリアンを皆さんと一緒に語りたと思いますので、ご協力よろしくをお願いします。

会長の時間

「人はいつでも幸せ」理論

会長 山ノ内 修一

池永さんが鶏料理店を開店されました。



三上さんの開口神社の向かいです。お店の名前は「旬鶏」。鶏料理を珍しい食べ方で食べさせてくれる、きれいな造りのお店です。皆さんにもぜひ行っていただきたいと思っています。

さて今週は、日本人3人のノーベル賞受賞という嬉しいニュースがありました。こういうニュースは大いに励みになり、元気が出ますね。村上春樹さんもいけるかと思いましたが、今回もダメで残念でした。

今日は、私が考えた「人はいつでも幸せ」理論というのをお話ししたいと思います（ノーベル賞は狙えないでしょうが・・・）。

その理論というのは、次のとおり。

- ①10月10日の今日、私がどんな状態であろうとも幸せだと仮定する。
- ②今後、私のたどる道は3つしかない。A. 今よりも良くなる B. 今と同じ C. 今よりも悪くなる。
- ③未来のX点から振り返ると、Aの場合「10月10日は幸せだったが、今はそれよりもっと幸せだ」、Bは「10月10日は幸せだったが、今も同じくらい幸せだ」、Cは「今はそれほどでもないが、10月10日は幸せだった」
- ④よって今後私がどんな人生をたどろうとも「今日という日が幸せである」ということが証明される。」というものです。

「人はいつでも幸せ」そう思いながら機嫌よく生活を送っていたある日、この話をある先輩に話したところ、「うん、いい！それは正論だ。」とほめてくれたのはいいのですが、その後「しかし・・・」と続いたのです。「しかし、それはまた「人はいつでも不幸せ」理論でも成り立つはず・・・。」（ガ～ン！です）。

「10月10日は不幸せだったが今はもっと不幸せ」「10月10日は不幸せだったが、今も不幸せ」「今はそれほどでもないが10月10日は不幸せだった」・・・なるほど・・・。

で、結論、どちらも成り立つとすれば、プラス思考で明るく「人はいつでも幸せ」理論で生きていくほうが楽しいのではなかろうかと思うわけです。

（ふと、「馬鹿の考え休むに似たり」という言葉が思い浮かびます・・・）

委員会報告



国際奉仕委員会

国際奉仕委員長 嶽盛 和三

今年度理事会にて承認されておりますが、ロータリー財団、米山記念奨学会に各委員会へ1万円ずつの自主寄付分として予算に各32万円を計上しておりますので、寄付金よろしくお願い致します。ロータリー財団と米山奨学会、各5,000円ずつの寄付をお願い致

します。納入と引き換えに領収書をお渡しします。

S A A 報 告

堀畑好秀会員 孫の小学校入学合格を祝して。

國井 豊会員 堺北ロータリークラブ 34 回目の誕生日を迎えました。おめでとうございます。

城岡陽志会員 例会、理事会を欠席すると、すこぶる体が快調です。

おらが自慢を一つ・・・

ノーベル賞の中村さんは、同じ村の出身です。うちの村は皆かしこいんです。

山ノ内修一会員 池田先生、先日はありがとうございました。

池永さん、この間から度々すみません。ありがとうございました。

嶽盛和三会員 創立記念日を祝して。

奥野圭作会員 落語同窓会の皆さん、先日は有難うございました。又夜間例会の欠席、誠に申し訳ありません。

藤永 誉会員 ついに例会を欠席してしまいました。でも休んだので、例会のありがたみや塩見幹事の優しさがわかった一週間でした。

合 計 29,000円

幹 事 報 告

(1) 本日の配布物 週報

(2) 幹事報告 週報の中に第3回定例理事会の報告と堺11RC連絡会の報告を掲載しておりますのでご覧下さい。

「第4回子ども囲碁フェスタ・堺」の第3回打ち合せ会議の報告も掲載しています。今後の流れと担当者、新しく決定した応募の仕方、前回の打ち合せ会議からの変更している所も御座いますので、皆さんご確認下さい。

本日は地区大会とインフォーマルミーティングの出欠確認の締切日ですので、皆様お忘れ無い様に記入してお帰り下さい。

ちびっこライターの作文が世界を駆ける

ここはジャマイカの小学校。11歳のジョーダン君が、ある子犬の話をクラスで発表しています。

その子犬は、配水管に落ちて衰弱していたとき、ジョーダン君の家族に助けられました。

その後、浜辺で遊べるほど元気になり、やがて大きな犬に...



この話は、7～11歳の生徒たちによる

児童作文コンテストに寄せられた話です。コンテストは、カリブ地域のロータリーEクラブ*が中心となり、周辺の10カ国が協力して主催されました。

* ロータリーEクラブ：従来型のクラブと同じように会合を開き、奉仕プロジェクトを実施し、会員同士の交流を楽しみます。大きな違いとして、会員がそれぞれ都合のよい曜日や時間にインターネットで参加します。

子どもたちの作文が世界に

児童作文コンテストのアイデアを思いついたロータリー会員は、英国のロータリークラブが主催した青少年プログラムからヒントを得ました。コンテスト規約や公募方法を学び、これならインターネットで活動するEクラブにもできるといったそうです。その後、地元クラブの連携を駆使して、多くの小学校から作品を募りました。2013年の第1回コンテストでは200の応募があり、2014年には300名のちびっこライターが参加。協力クラブごとに3つの地域賞を選び、主催者のEクラブが10の優秀作品を選びました。参加者には図書券をプレゼントし、さらなる読書を応援します。優秀作品は、“The Butterfly StoryBook”という一冊の本となって出版されました。また、ハイチのボランティア学生によってフランス語とクレオール語に翻訳され、近くスペイン語にも翻訳される予定です。

主催者のEクラブは、子どもたちの読み書き支援に役立ててもらおうと、この本をジャマイカの識字協会に寄贈。識字協会は、これのお返しにと、カリブ諸国でのコンテスト普及を応援することに同意しました。また、バージン諸島のロータリークラブが地元での識字支援に活用するために500部を購入したほか、カナダ、エチオピア、ハイチ、インド、英国の小学校への寄贈用にさらに多くを購入しました。この本は、Amazon.comで購入できます。収益は読み書き支援の活動に充てられ、図書館への寄贈にも最適です。

低所得者地域の子どもを本の世界へ

ロータリーは、国際読書協会（IRA、2002年よりロータリーと提携）と協力して識字プロジェクト賞への応募を募りました。今年7月、上記の児童作文コンテストと、米国のロータリークラブが実施した移動図書館プロジェクトが最優秀プロジェクトに選ばれ、スポンサーであるピアソン財団から支援金2,500ドルが贈られました。移動図書館プロジェクトでは、ロータリークラブとIRAに加え、ローターアクトクラブやEllensburg教育財団も本の収集・選別に協力しました。また、低所得者地域で本の貸し出しを行うために、当初はトラックをレンタルしていましたが、今年、協力者からの支援を受け、専用のトラックを購入できました。低所得者地域では、公共サービスも不足しがちになり、ほとんど自分の本を持っていない子ども。本を受け取った子どもたちの顔には笑顔があられると、ロータリー会員は話します。ボランティアの多くは教育関係者で、読み聞かせを行うことで子どものサポートを行っています。時には、年長の子が、弟や妹に本を読んであげることもあるそうです。

ROTARY NEWS より